睦小 あゆみ

学校だより９月号

親子で食事　親子で会話
親子で読書

校長　鈴木　学　平成２５年9月２０日

本校6年生は、国語より算数が得意
挑戦心、自尊感情を高めたい

全国学力・学習状況調査（小学校は６年生対象）の集計結果が発表され、新聞に「本県、小６全教科で平均以下」といった見出しが躍ったり、静岡県知事の発言がマスコミを騒がせたりしています。

本校の６年生については、国語に比べ算数の方が全体的に正答率が高いという結果になりました。本校児童の強み、弱みをよく精査して、指導に生かしていきたいと思います。

この調査では、国・算の学力以外に、児童生徒の生活状況についてもアンケート調査をしています。本校が全国や県と比べてよい点は、

○授業時間以外の勉強時間がやや多い
○ゲームをやる時間がかなり少ない
（ただし、テレビを見る時間は全国平均並み）
○読書時間がやや多い
○学校に行くのが楽しい子が多い
○家の手伝いをよくしている子が多い

○土日に家族と過ごす時間が多い子が多い

逆に、全国や県と比べて、課題と思われる点は、

●難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している子がやや少ない
●自分には、よいところがあると思っている子がやや少ない

といったところです。

テレビを見る時間と挨拶については、残念ながら全国平均並でしたが、読書や家庭学習、ゲームの時間などについては、「学校と家庭の努力点」の取り組みが、成果を上げているものと考えます。（あくまでも６年生対象の調査なので、本校全児童の傾向と一致するかどうかは分かりませんが・・）

本校の課題と思われる「挑戦心」「自尊感情」については、世界の国々と比べて日本の子どもたちが極端に低い項目であり、日本全体の課題とされているものです。

学校だけでなく家庭や地域社会においても、子どもたちが主体的に活動できる場面を多く設定し、そこで得た成就感、自信、満足感などを更なる意欲につなげていくことが大切だと思います。

自尊感情という言葉を聞くと、すぐに思い出すエピソードがあります。何年か前に１年生の担任から聞いた話です。

金曜日の帰り際、１年生の男の子が、その先生に言いました。

「先生、明日と明後日、ぼくに会えなくて寂しいでしょう。でも大丈夫だよ。月曜日には来てあげるからね。」

これ以上の『自尊感情』、『自己肯定感』があるでしょうか。この子は、両親や家族の確かな愛に包まれた温かな家庭で育ち、安心して自分らしさを発揮できる教室で学んでいたに違いありません。

もちろん社会性が未発達な１年生だからこそ言えた言葉ですが、自分をかけがえのない存在として思える気持ちは、大きくなっても持ち続けて欲しいものです。

秋バテ？　今ががんばりどころ

先生方の週プロに、「忘れ物や宿題忘れが目立つ。疲れ気味だったり体調を崩したりしている子がいる」という反省が多く書かれていました。夏休みのペースから抜けきれない子、運動会の練習疲れが見られる子などが目立つようです。

ここでがんばれるか否かは、２学期の成果に大きく影響します。そこで、ぜひ次の点にご協力ください。

- **音読カードや連絡帳のチェックをする**
- **３連休も規則正しい生活をさせる（お出かけする場合、特に月曜日は早めの帰宅、早めの就寝を）**
- **テレビの時間を減らし、学習と睡眠時間を確保する**

七歳になることの意味

１年生の男の子が、「校長先生、ぼくね、七歳になったんだよ。」と、とても嬉しそうに話してくれました。実は、七歳になるということは、これまでとは違う大きな意味があるのです。

江戸の時代、「七つまでは神のうち」という言葉がよく言われていたそうです。『七歳位までは神様のような純真な心をもっている』という意味ではありません。今と異なり乳幼児の死亡率が著しく高かったその時代においては、小さな子どもの魂は、たやすく肉体を離れ、人の世から神のもとへと奪われてしまう、危うくて儚い存在でありました。

「七つまでは神のうち」とは、幼い子を失った大人たちの諦めや慰めの言葉でもあったようです。

このように、子どもが順調に育つことが難しく、むしろ稀なことであったのですから、成長を心から祝う節目として、七五三などの習わしが大切にされてきたわけです。

生命力が確かなものとなり、人として無事にこの世を歩み出すのが、七歳であったということでしょう。つまり、七歳の誕生日は、人としてのデビューの日でありますから、特別におめでたいものなのです。

デビューしたばかりの１年生も、２学期になり、もう漢字の学習を始めました。

この日は、漢字の一、二、三・・に読み仮名を書く勉強です。二のところに（にい）と書いてしまった子がいて、先生が、「（に）ですよ」と優しく指導していました。

運動会の玉入れでは、必ず「１（いーち）、２（にーい）、３（さーん）」と数えますから、もっともな間違いと言えます。

数日後、また１年生の教室に行くと、やはり国語で「ものの数え方」をやっていました。りんごの１個、２個、３個や車の１台、２台、３台はよいのですが、えんぴつになると１ぽん、２ほん、３ぼん・・、さらに人では、ひとり、ふたり、さんにん、・・となります。これらの変化は、大人にとっては当然でも、1年生にとっては不思議で難解なものです。

（志の輔さんが、「ウニの数え方は、『つぼ（壺）』なんです。ウニも土地も同じなんですから、日本語は複雑でしょう。複雑だから落語という文化がで生まれたんです。」と高座で言っていましたが、本当かな？）

先ほどの男の子が、「七歳から人間になるなら、その前は何だったの？」と聞いて来たので、「神様みたいものかな？」と答えると、「ぼく、そっちの方がよかった！」と言っていました。七歳になり急に難しい勉強を強いられるのは、人間としての修行の始まりなのでしょうか。１年生も結構大変なのです。

保護者のマナーのよさも本校の自慢です

登下校時に正門付近に駐車する車はほとんど無くなりました。ご理解・ご協力をありがとうございます。運動会についてもよろしくお願いします。

- **校内での飲酒や喫煙は、もちろんのこと、イオンへの駐車、路上駐車は絶対にしないでください。**
- **ビデオ撮影は、決められた場所でお願いします。**
- **今年は、ＰＴＡ種目の玉入れがあります。終了のピストルが鳴ったら、すぐに投げるのをやめてください。**
- **できるだけ、閉会後の片付けにご協力ください。**